

平成18年3月

ご挨拶

会長 門松 正宏

皆様こんにちは

私は2005年7月にガラス産業連合会の会長に就任いたしました門松です。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。

ガラス産業連合会は、板硝子協会、硝子繊維協会、電気硝子工業会、日本硝子製品工業会、日本ガラスびん協会、ニューガラスフォーラムの6団体によって設立されてから、今年で早や6年を数えます。

この連合会は大きく分けて、2つのミッションがあると思います。

その1つは、そのときどきの経済・社会・政治的な課題に対して、連合会としての提言を積極的に行っていくことです。

もう1つは、ガラスの技術開発に対する戦略を策定し、軸足のしっかりした展開を進めて行くということだと考えております。

この2つがガラス産業の基盤整備につながり、産業の発展と生活の向上に貢献することになるものと思っております。

ガラス産業の共通課題は、何といたっても環境問題です。CO2削減・省エネのために溶解技術を更に向上させることが重要です。3R (Reduce、Reuse、Recycle) も積極的に推進していく必要があると考えます。

本年度事業のポイントについて具体的にご紹介いたします。

その第1が連合会のニーズによる「直接ガラス化による革新的省エネルギーガラス熔融技術プロジェクト」が、ナショナルプロジェクトとして採用されたことです。このプロジェクトは、ガラスの原料を溶かす時間を10分の1以下にする技術開発で、その成果が期待されます。

また、21世紀の先端技術として期待される「ナノガラス」につきましては、この連合会の一員であります社団法人ニューガラスフォーラムがナショナルプロジェクトの受け皿となって精力的に取り組んでおり、連合会としてこれを大いに支援していることの意義も大きいと思っております。

第2は環境広報部会の活動です。特に環境戦略の一環として、連合会としてのCO2削減のための自主行動計画を作成し、公表する準備を進めており、また、未来戦略として、国内の環境に配慮した生産プロセス推進事例の見学・調査に取り組んでおります。更に、東京大学の清家先生に企画をお願いして、ガラスの環境・省エネ・3Rなどの切り口から欧州先進的な事例を調査し、これを纏めて未来戦略の提言とする試みも予定されています。

第3にガラスの面白さを「GICガラスミュージアム、砂から生まれたモノがたり」をホームページ上で立ち上げる作業も着々と進み、2006年1月公開の運びとなりました。

最後に、ガラスという素材は5000年間、他の材料に置き換わっておりません。

もしこの社会からガラス製品が無くなったら、世界が真っ暗になってしまうほど、ガラスは魅力の尽きない材料です。今、国内ガラス業界の市場規模は、1兆7千億円と推定されています。

その半分はコンベンショナルなガラスで、ニューガラスの分野が半分以上を占めるようになってきました。情報通信・ナノガラスの分野から今後ますます市場の拡大が期待できる材料であり、ガラスには未来と夢があるのです。この夢に向かってしっかり取組んで行きたいと思っています。

以 上